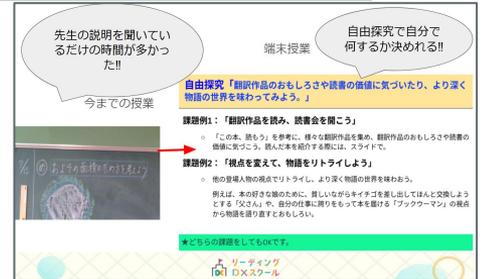


ICTを活用した自己調整力の育成

パネルディスカッションで発表したスライド



全体会で6年生の児童3人が
「自己調整力」をテーマに
パネルディスカッションを行った。



どのように学習すればよいのかを調整しながら学習していることを全体会で児童自身が発表した。児童の学習観が変容したのは、教師がデジタル学習基盤を活用しながら、児童主体の授業を実現したからである。

具体的には、スプレッドシート、フィグジャム、スライドといった汎用的アプリケーションを活用することで、児童は自分で課題を設定し、計画を立て、学び方を決める姿へと成長した。同時に、教師の役割は、こどもが自己決定できる環境をデザインし、支える存在へと変わった。

これらの取組により、児童は自分の学びを自分で舵取りできるなどの実感をもつことができた。

ICTを活用した自己調整力の育成



今日の鈴鹿市立郡山小学校

【今日のよひょうか】
 ① 計算を使って、2けたの数×2けたの数の計算ができる。
 A: 8×8の筆算のしかたを説明できる。
 B: A+どこに気をつけて筆算をすればいいかを説明できる。

【ながれ】
 (1) ああで、目ざすレベル、ながれをかくに入する。
 (2) 【かたいのせうてい】目ざすレベル・どのように考える・だれと学ぶかを決め、スプレッドシートに入力する。
 (3) 【じょうほうのしゅうしゅう】【せいり・せきせき】
 ① 12×23の計算のしかたをノートにかく。
 ② 教科書68ページの筆算のしかたをノートにうつす。
 ③ 12×23の計算のしかたをもとにして、筆算のしかたをもとに説明する。
 ※動画（筆算の手順）・・・<https://www5.toho.jp/edu/3b/3b2/>
 ※学習ボックスにヒントがのっています。
 ※計算のしかたと、筆算のしかたのちがうところを見つけて、ともたちに説明する。
 (4) 【まとめ・表げん】考えたことをまとめる。
 (5) 教科書69ページの△1と△2を
 終わったら自分でまるつけをする
 △1の答え・・・<https://www5.toho.jp/edu/3b/3b2/>
 △2の答え・・・<https://www5.toho.jp/edu/3b/3b2/>
 (6) 3のくりりをスプレッドシートに入力する。(1)と(2)のよひょうかと、(3)の(3)

一人でもどのくらい進められそうか
進められる層はどこか

Kazunori SATO | SHINSHU University Faculty of Education | All Right Reserved

自ら学び進める子供を育てる際に影響する学習観（授業観）

- 学習目標は何か
 - ✓ 教科内容の理解か、学習方法の習得か
- 授業は誰のペースで進められるべきか
 - ✓ 先生のペースか、子供1人1人のペースか
- 授業設計で検討すること
 - ✓ どのように教えるか、どのように学ぶか
- 板書・掲示物の役割
 - ✓ 学習内容か、学習過程か
- 学習の在り方に対する考え方
 - ✓ 一步一步地道に進むものか、可能な限り効率的に進めるものか
- 知識をどのように身につけるか
 - ✓ 知識は外から詰め込まれるものか、知識は自ら調べて構成するものか
- どんなプロセスで学習するか
 - ✓ ステップか、問題解決的・アジャイルのか
- ICTはどう使うか
 - ✓ 場面を限定するか、使いたい時に好きに自在に使うか
- 教師の役割
 - ✓ 先生がいると学べるのか、子供だけで学べるのか

Kazunori SATO | SHINSHU University Faculty of Education | All Right Reserved 泰山・佐藤・堀田（2024）

全体会では、信州大学教育学部の佐藤和紀先生から御助言をいただいた。「集団で学習するために、整理・整頓等の学習規律を徹底させること」「学習目標・内容・学び方の観点で、どこまでこどもに委ねているのか教師自身が把握すること」「自ら学び進めるこどもを育てる際の授業デザインや教師の役割」についてお話をいただき、参加した教員が自分の実践を振り返りながら、今後の授業改善を考える機会となった。